

# 令和1年度 さぎなみっこ保育園 評価の公表

保育者が保育の質の向上を図る目的で実施した、自己評価に基づき、園全体としての評価、課題、今後の目標を検討し、保育計画・保育実践の共通理解を図り、保育がより良いものになるよう、園の自己評価として公表いたします。

## 園全体の評価

### ●今年度の評価

- ・保育者が子どもの発達に寄り添った保育を計画し子どもの健康と安全に配慮した保育実践をすることができた。
- ・保育者が多くの園内外の研修等に参加し、知識や技術の向上に努めることができた。
- ・日々の遊びを通して、体力づくり（散歩、戸外遊びなど）ができた。
- ・戸外活動では、散歩の距離をのぼしながら、子ども達の体力づくりに努めることができた。
- ・畑や田植えの一連の活動を通して、子どもが食育活動に関わることができた。
- ・食育研究会で、園の田植え活動について、研究発表を行うことができた。

畑の活動 ⇒ 3・4・5歳児を中心に畑の草むしりから始め、土壌づくり、うねづくりを行った。畑では、スイカやかぼちゃ、オクラ、冬瓜、ジャガイモなどの野菜の苗植えを行った。

野菜が出来る前の苗を観察したり、苗の植え方を知ったりと自分たちで植える楽しみや野菜の生長に喜びを感じる事ができた。水かけは、年長年中が中心となり、畑まで散歩をしながら向かい行った。園庭菜園は、2歳児が中心となり畑の整備や土壌づくりを行った。きゅうりやトマトの苗を植え、水かけは、0・1・2歳児の3クラスで実施。

園庭であそぶ際や、保育室の窓から、野菜が成長していく過程を、観察することができた。年少クラスでは、夏野菜の絵本を通して、園庭に植えた野菜に興味を持ったり、野菜スタンプを行い、野菜の色や形に興味を持ったり、実際に触れて感触を味わったりと畑活動に参加することができた。

年長年中は、食育クッキングを通して、畑で収穫したじゃがいもで、マッシュポテトを作り、子どもたちが「おいしい～」と話しながら、楽しそうに食育活動に参加できた。

田植えの活動⇒子どもたちと一緒に田んぼの草刈りを行い、田んぼの土壌づくりは、田んぼに水を入れ、足で土を踏みならした。田植えや稲刈りは、保護者や地域の方も交えて、子どもたちも一緒に行った。保護者からも貴重な体験ができ楽しかったとの声もきかれた。また、田んぼまで散歩をしながら、一緒に稲の成長を観察することができた。

子どもたちが、田植え、稲刈り、脱穀、精米まで参加し、収穫したお米を使って、餅つき会で臼と杵を使い、親子で楽しく行事に参加した。また、収穫したお米は、わずかであったが、子どもたちと一緒に鏡餅を作って楽しむことができた。

田んぼ活動を通して、土や稲に触れ、稲が生長する喜びや楽しみを、身をもって学ぶことができた。また、子どもたちや保護者、地域の方との交流が出来たことも、地域と共に子どもたちの成長を見守る意味でもよかったと思う。

食育研究会では、田んぼ活動の一連の流れについて、研究発表をすることができ、保育者の知識や技術の向上、学びや成長につながったと考える。

## ●今年度の気づき

- ・各クラス間での情報を共有し、保育計画・保育実践に繋げることができた。3・4・5歳児クラスを中心に戸外活動を積極的に行い、低年齢児クラスでは、個々の発達と健康状態に配慮し、個別での戸外活動を取り入れた。
- ・食育活動を通して、子どもたちと保護者、地域の方との交流ができた。地域と共に子どもたちの成長を見守ることに繋がることから、今後も積極的に地域交流を取り入れていきたい。
- ・畑や園庭菜園の整備、田んぼの整備や土壌づくりなど、一連の流れを子どもたちと一緒に参加することができた。また、田植えや稲刈り、もちつき会など、子どもたちと保護者が行事として楽しみながら参加できた。
- ・食育研究会で、園での田植え活動を、他園にも情報発信することができた。

## ●次年度の目標

- ・今後も各クラス間での情報を共有し、保育計画・保育実践に繋がれるようにする。
- ・年長が中心となり、戸外活動を積極的に行い、体力づくりを目標に足腰の強化をはかる。低年齢児クラスは、個々の発達と健康状態に配慮し、個別での戸外活動を取り入れる。
- ・食育リーダーを中心に食育研修に参加し、そこで学んだことを他の保育者と共有しながら、食育活動を継続する。また、保育者は、食育活動の記録を残し、掲示物等で、園での食育の取り組みについての情報を、保護者に対して発信する。

## 【食育と体力づくりについて】

園の周辺には、田んぼや畑があり、子どもが自然や土に触れあう機会を多く持てる、素晴らしい環境がある。そこで、子どもが田植えや畑（野菜作り）を通して、野菜に触れたり、土に触れたりとしながら食育に参加し、自分たちで育てた野菜を収穫する喜びや感動、達成感を味わうことに繋がる。また、子どもたちの生きる力と、自ら工夫する知恵を育てる。また、散歩や戸外遊び、食育活動を通して、足腰の強化を図り、大きなケガをしにくい身体づくりを目指す。

## 《令和1年度 計画と実践》

- ・畑や田んぼの整備、土壌づくり、野菜の苗植え、水かけ ⇒ 3・4歳児が実施。
- ・園庭菜園の整備、土壌づくり ⇒ 2歳児が中心となり実施。
- ・園庭菜園の観察、水かけ ⇒ 0・1歳児も参加し、全クラスで実施。
- ・田植えや稲刈りは、子どもたちと保護者、地域の方が一緒に参加し、交流をはかった。
- ・食育研究発表の実践。

## 《令和2年度 保育計画》

- ・畑や田んぼの整備は、3・4・5歳児が中心となり、水かけや観察については、各クラスで保育活動の中で実施していく。また、田植えや稲刈りは、親子行事を計画し、保護者や地域の方と一緒に活動に参加し、地域に根差した保育園を目指し、地域の方と一緒に子どもたちの成長を見守っていくことに繋げたい。

## 【総評】

保育者が自己評価を実施し、自身の保育観を振り返り、専門職としての意識を高め、園全体の保育の質の向上に取り組むことができた。また、報告・連絡・相談、情報共有の重要性や、保育実践において、保育計画に基づき、遊びや食育活動、戸外活動を通して、子どもの心と身体の成長・発達、相互的な保育の充実に繋げていきたいと思う。また、子どもたちの食育活動について、保護者や地域の方と一緒に参加し、交流を図るきっかけに繋がったと思う。今後も継続して行い、地域に根差した保育園を目指していきたい。